社会資本総合整備計画 都市再生整備計画 事後評価シート 篠隈地区

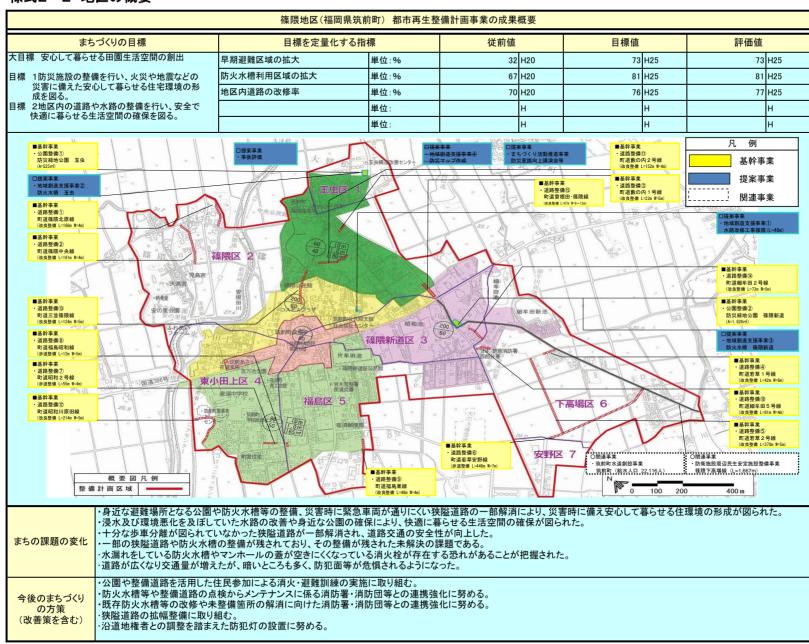
平成26年3月

福岡県 筑前町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	Ħ.	市町村	村名		筑前町		1:	也区名			篠隈地区		面積	173ha	
交付期間	平成21年~	平成25年	事後評価等	実施時期		平成25年度		交付対	付象事業費		463	国費率	0.4			
										事業名		•	_			
	当初計画に 位置づけ、	基幹事業			. 篠隈新道防災線 道藪の内2号線.						「道若草1号線、田	丁道若草2号線、 田	T道若草・安野線、町道昭和2	号線、町道福島・	昭和線、町道福島東	
	実施した事業	提案事業	地域創造支援	事業(水路	改修工事篠隈、3	玉虫防火水槽	1、篠隈新道防火	く水槽)まちて	びくり活動推進事業	業(防災意識向」	上講演会等)					
					事業	笔名				削除/追	量加の理由		削除/追加による目	標、指標、数値	目標への影響	
	当初計画から	基幹事業	足田牟田4号	線(区画線表	長示)、二タ篠隈县	長者町線(ガー	ードレール設置)	交通安全施設整備事業で対応				なし				
1)事業の実施状況	削除した 事業	提案事業	防火水槽(篠)	隈新道1箇所	斤、福島2箇所)均	也域創造支援	事業(防災マッ	防火水槽は、上水道の消火栓を利用する。防災マップ作成は、環境防災課において、平成26年度町全体の防災マップを見直し、マップ作成の予定があるため事業をよりめぬ				なし				
	新たに追加し	基幹事業	道路(町道細2	牟田2号線、	町道曽根田・篠	隈線)		細牟田2号線は行き止まり道路の解消、曽根田・篠隈線は主要交差点改良。				区域内道路の改修率が1%	6上がった。			
	た事業	提案事業	なし													
	交付期間	当 初		-			間の変更による		_				+			
	の変更 変 更						数値目標への									
		指 標		単位	従前(値 基準年度	目標的	^直 目標年度	数モニタリング	<u>値</u> 評価値	目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	指標1	早期避難可	能区域の拡大	%	32%	平成20年度	73%	平成25年度		73%	0	あり なし	現避難区域の拡大が図られた。町 …の歩きやすさが向上した。防災に 上も図られた。			
2)都市再生整備計画 に記載した目標を	指標2	防火水槽利	用区域の拡大	%	67%	平成20年度	81%	平成25年度		81%	0	あり なし	地区内の殆どが防火水槽利用区域 活動までの時間が短縮された。消 阻害する場所が減少した。常時の	防ホースの延長を		
定量化する指標 の達成状況	指標3	地区内道路(の改修率	%	70%	平成20年度	76%	平成25年度		77%	0	あり なし	歩きやすく安全で快適な道路環境 歩行者と自動車の分離が図り易く 行も容易となった。	の整備が図られた。 なり、緊急車両の通		
	指標4											あり なし				
	指標5											ありなし				
		指標	-		従前	~	目標係		数	値	目標	1年以内の	効果発現要		フォローアップ	
3)その他の数値指標	その他の	7.1. 12.		単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
(当初設定した数値 目標以外の指標)に	数値指標1															
よる効果発現状況	数値指標2															
4)定性的な効果	数値指標3															
発現状況																
					実施内容			如士玉先常	(井弘本)・2021	実施状況			今後の対	讨応方針等		
	モニタリ	ング	なし						備計画に記載し、 備計画に記載は		新l .た	<u> </u>				
			,50						備計画に記載し							
5)実施過程の評価	住民参	- tin	仕足の吐※	音楽を言い	 るため、学識経	な除来学によ	スペッキュ	都市再生整	備計画に記載し、	、実施できた			も防災意識を高めるため、消	防署や消防団等	との連携の下、防災	
3/天旭旭怪の評価	仕氏令 プロセ		住民の防災が上講演会を写		るにめ、子畝栓	:	る 例火 思 祇 円					Fの実施に取り組んでいく。				
	持続的なま	ちづくい							生整備計画に記載し、実施できた							
	付続的なま 体制の材		なし						備計画に記載は							
	体制の博業							都市再生整	備計画に記載し	たが、実施できた	いかった					

様式2-2 地区の概要



都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1)成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2)実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-3 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3)効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-3 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4)今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-3 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5)事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

(6)評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

(7)有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更 あり なし	変更前	変更後	変更理由
A. まちづくりの目標	•			
B. 目標を定量化する指標	•			
C. 目標値	•			
D. その他(全体事業費)	•	475千円	463千円	道路事業費・事業期間の見直し及び防災マップ作成を中止

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
			当初計画	最	終変更計画	当初計画からの	都市再生整備計画に記載した	事後評価時	寺の完成状況
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容	変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	完成	完成見込み
道路	町道篠隈北原線	26	L=168m w=4m	24	L=168m w=4m	事業の進捗にあわせ事業費変更	影響なし	•	
道路	町道篠隈中央線	20	L=191m w=4m	21	L=191m w=4m	事業の進捗にあわせ事業費変更	影響なし	•	
道路	町道藪の内1号線	1	L=22m w=4m	1	L=22m w=4m			•	
道路	町道若草1号線	3	L=42m w=6m	3	L=42m w=6m			•	
道路	町道若草2号線	43	L=370m w=5m	42	L=370m w=5m	事業の進捗にあわせ事業費変更	影響なし	•	
道路	町道若草·安野線	59	L=446m w=7m	53	L=446m w=7m	事業の進捗にあわせ事業費変更	影響なし		•
道路	町道昭和2号線	6	L=55m w=4m	8	L=55m w=4m	事業の進捗にあわせ事業費・事業 期間変更	影響なし	•	
道路	町道福島·昭和線	1	L=12m w=5m	1	L=12m w=5m			•	
道路	町道福島東線	3	L=46m w=4m	3	L=46m w=4m			•	
道路	町道細牟田5号線	7	L=81m w=4m	7	L=81m w=4m	事業の進捗にあわせ事業期間変更	影響なし	•	
道路	町道藪の内2号線	29	L=152m w=4m	28	L=152m w=4m	事業の進捗にあわせ事業費変更	影響なし		•
道路	町道昭和·川原田線	50	L=214m w=5m		L=214m w=5m			•	
道路	町道三並·篠隈線	4	L=124m w=5m	4	L=124m w=5m			•	
道路	町道細牟田2号線	18	L=73m w=5m	20	L=73m w=5m	事業の進捗にあわせ事業費変更	影響なし	•	
道路	町道二タ篠隈長者町線	1	ガードレール設置	1		交通安全施設整備で対応	影響なし		
道路	町道足田牟田4号線	1	区画線表示			交通安全施設整備で対応	影響なし		
道路	町道曽根田・篠隈線	49	L=87m w=9~12m	43	L=87m w=9~12m	事業の進捗にあわせ事業費変更	影響なし	•	
公園	防災緑地公園玉虫	23	A=525m²	23	A=525m²			•	

公園	防災緑地公園篠隈新道	119	A=1,626m²	119	A=1,626m ²		•	
地域生活基盤 施設								
地域生活基盤 施設								
地域生活基盤 施設								
地域生活基盤 施設								
地域生活基盤 施設								
住宅市街地 総合整備事業								

^{※1:}事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業 当初計画 最終変更計画 事後評価時の完成状況 当初計画からの 都市再生整備計画に記載した 事業 変更の概要 ※1 まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響 事業箇所名 事業費 事業内容 事業費 事業内容 完成見込み (事業の削除・追加を含む) 地区再開発事 バリアフリー環 境整備事業 優良建築物等 整備事業 住宅市街地 総合整備 事業 街なみ環境整 備事業 住宅地区改良 事業等 都心共同住宅 供給事業 公営住宅等整 都市再生住宅 等整備 防災街区整備 事業

^{※1:}事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

			当初計画	重	長終変更計画	当初計画からの	都市再生整備計画に記載した	事後評価時	持の完成状況
事業	細項目	事業費	事業内容	事業費	事業内容	変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	完成	完成見込み
	水路改修工事篠隈	1	46m	1	46m			•	
	防火水槽整備玉虫	5	1基	5	1基			•	
	防火水槽整備福島1	7	1基			上水道の消火栓を利用	影響なし		
地域創造 支援事業	防火水槽整備福島2	8	1基			上水道の消火栓を利用	影響なし		
	防火水槽整備篠隈新道	6	1基			上水道の消火栓を利用	影響なし		
	防火水槽整備篠隈新道	4	1基	4	1基			•	
	防災マップ作成	1	1式			環境防災課において見直し作成の 計画あり。	影響なし		
	事後評価	2	1式	2	1式				•
事業活用調査									
	防災意識向上講演会	1	1回	1	1回			•	
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

			事業		事業	期間		
事業	細項目	事業箇所名	当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画	進捗状況及び所見	備考
防衛施設周辺即	民政安定施設整備事業	篠隈下高場線	1,106	1,106	平成15年度~平成23年度	平成15年度~平成23年度	完了	
筑前町水道創詞	设事業	筑前町	7,400	7,400	平成17年度~平成26年度	平成17年度~平成28年度	財政事情により2年間延長	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

1M 13 1M 262	指 標		データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、	面値の求め方		従前値 (イ)		目標値(ウ)			数値(エ)	目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
		単位	対象、具体手法等)		基準 年度	"	基準 年度		目標 年度					あり	なし
			半径500mの範囲を老人が徒歩 にて10分以内で避難できる区域							モニタリング		モニタリング			
指標1	早期避難可能区域の拡 大	%	を早期避難可能区域と設定し、同区域が整備計画区域に占め	32%	H20	32%	H20	73%	H25	事後評価	確定 ●	事後評価	0		
		る割合を評価値とする。 防火水槽等から半径120mの範		7 24112	見込み	7 24112									
	CHALL # TUPE HOLD		囲を防火水槽利用区域と設定							モニタリング		モニタリング			
指標2	防火水槽利用区域の拡 大	%	し、この区域で整備計画区域内 をカバーするのに必要な全箇所 数(36)で整備箇数を除した値を	67%	H20	67%	H20	81%	H25	事後評価	確定 ●	事後評価	0		
			評価値とする。								見込み				
			整備計画区域内における4m以 上の改良延長を実延長で除した							モニタリング		モニタリング			
指標3	地区内道路の改修率	%	値を4m以上の改良率と設定し 評価値とする。	70%	H20	70%	H20	76%	H25	事後評価	確定 ●	事後評価	0		
										7 12 11 11	見込み	7 1211111111111111111111111111111111111			
指標4										モニタリング		モニタリング			
1日1示4										事後評価	確定 見込み	事後評価			
15.1m=										モニタリング		モニタリング			
指標5										事後評価	確定 見込み	事後評価			

指標	目標達成度〇△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	当該地区の災害時の避難場所を国道386号の南北に整備ができ、現在の避難場所である夜須中学校と合わせ早期避難可能区域の拡大における目標値を達成することができた。	
指標2	2ヶ所の防火水槽を整備し、上水道布設工事に伴う消火栓3ヶ所の整備ができ、従前の防火水槽等24ヶ所と併せて防火水槽利用区域の拡大における目標値を達成することができた。	
指標3	町道藪の内2号線と町道若草安野線の整備が継続中であるが、両路線ともに平成25年度内に完了予定であり、これら道路事業の進捗により、地区内道路の改修率における目標値を評価基準日[平成26年3月31日]には達成することができる見込みである。	
指標4		

^{※1} 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

^{※2} 目標達成度の記入方法

 ^{○ :}評価値が目標値を上回った場合
 △ :評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
 × :評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-20 その他の数値指標(当初設定した数値日標以外の指標)による効果発現の計測

/3K 13 13K 14C 2		- 14 44 -	ヨ物政をした 数値日係の		170	27937K7U5	MAN HIW	·J			
	指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の (ア)	値 基準 年度	従前値 (イ)	基準年度		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
その他の								モニタリング			
数値指標1								事後評価	確定 見込み		
その他の								モニタリング			
数値指標2								事後評価	確定 見込み		
その他の								モニタリング			
数値指標3								事後評価	確定 見込み		

^{※1} 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

防火水槽を整備することによって、今までの河川からの給水ばかりに頼ることがなくなった。そのことで、消火活動における消防車の配置作業から放水までの時間が短縮されたところもある。 防火水槽の充実や学識経験者等による防災意識向上講演会の開催により、地元住民の防災に対する意識向上が図られた。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3一① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度·実施時期·実施結果	今後の対応方針等
_	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
_	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

WILLIAM ENGLISHED	77/10 17/10				
都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度·実施時期·実施結果	今後の対応方針等		
住民の防災意識を高めるため、学識経験 者等による防災意識向上講演会を実施す	予定どおり実施した ●	町内の区長・消防団員をはじめ参加者130名	今後は、消防署や消防団等との連携の下 防災訓練等の実施を通して、地元住民の		
ం .	予定はなかったが実施した	講師演題2:「伝え合い」「避難する」地域のあり方	災意識の向上に取り組む予定 		
	予定したが実施できなかった (理由)	〜災害に弱くなった地域を問い直す〜 ⇒備蓄品、避難・避難場所、集中豪雨に対する備え等について意見交換			
	予定どおり実施した				
_	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由)				

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容	構築状況	実施頻度・実施	時期•実施結果	今後の対応方針等
又は、実際に実施した内容	博未 状况	i.体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	7 後のが心力如 守
	予定どおり実施した			
_	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
_	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

WALLE HANDER . O AND LAND TO THE THE OF A PARTIE AND											
名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署								
	事業関係課(企画課、教育課、環境防災課、都市計画課、建設課)	平成26年2月26日	建設課								

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

	指標の種別	76-963	指標1		指標2		指標3	指標〇	
	指 標 名		早期避難可能区域の拡大		水槽利用区域の拡大	地	区内道路の改修率		
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見
基幹事業	町道改良事業 公園整備事業	0 6	当該地区の災害時の 避難場所を国道386 号の南北に整備することにより、現在の避難場所である変難区域の 場所である変難区域の拡大が図られた。 町道の改修も進んだことで、が向上した。 防災意識の向上が図	0	防火水槽等の充実に より、水槽等の充発と が大火水槽区内の区域に 大水槽石、 が大水槽石、 が水がでかり、 がでかり、 がでかり、 がでかり、 がでかり、 がでかり、 がでかり、 がたる。 がたる。 がたる。 がたる。 がたる。 がたる。 がたる。 がたる。	0	狭隘道路の拡幅や排水設備の整備により、適な道路で、安全で快適な道路環境の整備が図られた。 道路の拡幅により、歩行者と自動り、分離面の通行も容易となり、易となった。		
提案事業	水路改修工事 防火水槽整備 防災意識向上講演会 防衛施設周辺民政安定施設整備事業 筑前町水道創設事業	0	られ、早期避難に対する住民意識の向上も図られた。		する場所も減少した。 公園に防火水槽等が整備されたことで、常時の防災訓練もやり易くなった。 避難場所の公園に防火水槽等が整備されたことで、災害時に避難にととで、災害場所での治療にといる。 といる場所である。 といる場所での対象により近な場所での消火活動が可能となった。	0			

※指標改善への貢献度

- ③:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。 ○:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。 ○:事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に **貢献しなかった。**−:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確
- なので、評価できない。

今後		に取り組み、避難場所の周知	防火水槽等の位置や利用状況 について、消防署・消防団等と の情報共有に努める。		
----	--	---------------	---	--	--

添付様式4-3 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

		指標の種別		指標1			指標3			指標〇			指標〇	
	指標名													
種別	事業名•箇所名		目標 未達成へ の影響度	総合所見	要因の 分類									
基幹事業					分類Ⅲ			分類Ⅲ						
提案事業														
関連事業														
x:事指標/ ボス・ 本:事指機信程となる を要類類II:外 分類類II:外 が類類II:外 が表現る が表現る で要類類II:外 が表現る が表現る で要類類II:外 がの がの がの がの がの がの がの がの がの がの	成への影響度 「効果を発揮せず、 り目標未達成の直接的な原因となった。 「効果を発揮せず、)目標未達成の間接的な原因となった。 りにできながった中でも、 度の効果をあげたと思われる。 指標の間には、もともと関係がないことが にので、評価できない。 類 がな要因で、予見が可能な要因。 的な要因で、予見が不可能な要因。 的な要因で、予見が不可能な要因。 的な要因で、予見が不可能な要因。	改善の方針 (記入は必須)												

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署		
	事業関係課(建設課、環境防災課、都市計画課、 企画課、教育課)	平成26年2月26日	建設課		

添付様式5-② まちの課題の変化

MITTAREO CO COUNTRA			
事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
ちづくり	・避難しやすい身近な避難場所が整った。 ・防火水槽等の整備により、火災時に利用しやすい消防水利が充実した。 ・災害時に緊急車両が通りにくい狭隘道路の一部解消された。	今後とも防火水槽の整備が必要である。	水漏れをしている防火水槽やマンホールの蓋が空きにくくなっている消火栓が存在する恐れがあることが把握された。 消防水利の点検の中でまずは調査をし、必要に応じて改修する必要がある。 道路が広くなり交通量が増えた。暗いところも多く、防犯面等
道路交通の安全性の向上	・十分な歩車分離が図られていなかった狭隘道路が一部解消された。	今後とも狭隘道路の解消が必要である。	が危惧され、その改善が必要となった。
住みよい環境のまちづくりの 推進	・浸水及び環境悪化を及ぼしている水路が改善された。 ・身近な公園が確保された。		
	· Control of the cont	1	•

添付様式5-③ 今後のまちづくり方(改善策を含む)

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
. 199	災害時に的確に対処できるまちづくりの持続		公園や整備道路を活用した住民参加による消火・避難訓練 の実施
A欄 効果を持続させるため に行う方策	防火水槽等や避難ルートとなる整備道路の維持管理		防火水槽等や整備道路の点検からメンテナンスに係る消防 署・消防団等との連携強化

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策			既存防火水槽等の改修や未整備箇所の解消に向けた消防 署・消防団等との連携強化
・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策		災害時における緊急車両等の円滑な運行を図るため、引き続き狭隘道路の解消に取り組む必要がある。	狭隘道路の拡幅整備の推進
。)が改善泉 ・新たに発生した課題に対す る改善策		夜間の歩行者の安全性を高めるため、防犯灯等の設置を検討すべき。但し、防犯灯の設置にあたっては、農作物の発育に対する光害も危惧され、設置にあたっては周辺の地権者との調整を十分に行う必要がある。	沿道地権者との調整を踏まえた防犯灯の設置

フォローアップ又は次期計画等 において実施する改善策 を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-0	③の記入にあた・	ってけ 下記	の事項を重確認 て	これらの給討結里を		.て下さい。(チェック欄)

	- 10
0	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
0	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
0	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
0	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-3)を再確認した。
)	残された課題や新たな課題(添付様式5一②)を再確認した

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見 なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内 の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計 画を記入して下さい。

	指標		従前値	,	目標値	,	評価値		目標	1年以内の 達成見込みの			フォローアップ計画	
,	14 保	単位	1处刑胆	年度	日信胆	年度	a # 1		達成度	達成兄込みの 有無		予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	早期避難可能区 域の拡大	%	32%	H20	73%	H25	確定 O 見込み	73%	0	あり なし	→			
指標2	防火水槽利用区域 の拡大	%	67%	H20	81%	H25	確定 O 見込み	81%	0	あり なし	→			
指標3	地区内道路の改修 率	%	70%	H20	76%	H25	確定 O 見込み	77%	0	あり なし	→			
指標4							確定 見込み			あり なし	→			
指標5							確定 見込み			あり なし	→			
その他の数値指標1							確定 見込み				→			
その他の 数値指標2							確定 見込み				→			
その他の数値指標3							確定 見込み				→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

		1. 記入しより。			
項	目	要因分析	次期計画や他地区への活かし方		
数値目標	うまくいった点	道路計画事業が円滑に進められた要因としては、道路用地に係る地権者の協力が大きかった。	沿道地権者等に対して事業の目標や成果についての理解と協力をお願いしていくことが、事業		
・成果の達成	うまく いかなかった点				
数値目標と 目標・事業との	うまくいった点				
整合性等	うまく いかなかった点				
住民参加		ハード事業の防災施設整備と併せて、ソフト事業として学識経験者等による防災意識向上講演会 を開催したことが、地元住民の防災意識の向上や事業推進に対する理解に効果があった。	ハード事業の推進と併せて、効果促進としての ソフト事業に取り組むことが事業効果を高めるう えで有効である。		
- 情報公開	うまく いかなかった点				
PDCAによる事業	うまくいった点				
・評価の進め方	うまく いかなかった点				
その他	うまくいった点				
C 45/1E	うまく いかなかった点				

添付様式6一参考記述	今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)
なし	

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間·公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	H26.2.28~H26.3.16	H26.2.28~H26.3.17		
広報掲載·回覧·個別配布	_	_	_	窓口 郵送	建設課
説明会・ワークショップ	_	_		FAX 電子メール	连议床
その他	窓口閲覧(建設課)	H26.2.28~H26.3.16	H26.2.28~H26.3.17		

住民の意見

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験の ある委員	平山一美(筑前町都市計画審議会委員)				
その他 の委員	矢野 和雄(地区内区長代表) 松本 龍彦(地元ボランティア団体代表/消防団)	平成26年3月19日	建設課	なし	同時に設置

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手 続き等にか かる審議	方法書	問題なし。
	成果の評価	残された事業も年度内に完成するということで、評価値を確定とすることが確認された。
	実施過程の評価	問題なし。
	効果発現要因の整理	問題なし。
	事後評価原案の公表の妥当 性	問題なし。
	その他	問題なし。
	事後評価の手続きは妥当に 進められたか、委員会の確認	問題なし。
今後のまち づくりについ て審議		以前整備された防火水槽の中には水漏れをしているものがあり、消火栓についてはマンホールの蓋が空きにくくなっているものもある。消防水利の点検の中でまずは調査をして、場合によっては修理をすべきとの意見があった。 道路が広くなり交通量が増えた。暗いところも多く、防犯面等が危惧される。夜間の歩行者の安全性を高めるため、防犯灯等の設置を検討すべき。但し、防犯灯の設置にあたっては、農作物の発育に対する光害も危惧され、設置にあたっては周辺の地権者との調整を十分に行う必要であるとの意見がった。
	フォローアップ	特になし。
	その他	次の計画は無いのか?篠隈地区以外にも同じような問題を抱えるところがあるので、次の計画を考えてほしい。
	今後のまちづくり方策は妥当 か、委員会の確認	消防水路の点検、防犯灯の設置についての方策を加筆して欲しいとの意見がった。
その他		特になし。

^{※1} 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に 有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。				
意見聴取した有識者名・所属等		実施時期	担当部署	
大学者の辛見				
有識者の意見				